

今回から通算で回数を記載することになりました！



第4回「こえる場！」全体会

日時：平成30年10月31日（水）午後1時30分～午後4時

場所：芦屋市消防庁舎3階 多目的ホール

第4回「こえる場！」
ニュースレター

◎新規参画された企業・団体の紹介

NPO法人さんびいす

「人を育てる」「街を育てる」「学びを育てる」の目標を掲げており、芦屋で15年間人材育成や市民参画を主な活動として行っている。

福祉分野の参画は、「こえる場！」が法人として初めての取組である。

「こえる場！」での活動を通して、まちづくりや、人材育成に生かしていきたい。

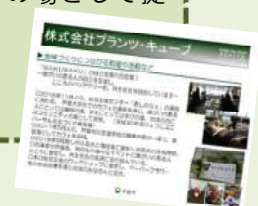


NPO法人さんびいす
理事長
河口 紅 氏

株式会社プランツ・キューブ

自立支援の合言葉「WAKUWAKU」をコンセプトに、障がいのある人の自立を支援し、こころのバリアフリー化、共生社会を目指している。

芦屋大学内の「あしかふえ」の運営に携わり、障がいのある人の就労の場、学生の学びの場、地域の人のコミュニティの場として提供している。



現在のこえる場！

5つのグループに
わかれて取組中！

それぞれの活動
状況については
次のページに記
載しています！

第3回
こえる場！
平成30年
7月20日開催

食を通じた多世代交流

子育て支援

多世代共助

世代をこえた
人生を豊かにする学び

その他

第4回
こえる場！



今後の
「こえる場！」の展開

「こえる場！」は
何を「こえる」のか？

各グループ進捗状況発表

食を通じた多世代交流



あしや聖徳園の「食を通じた多世代交流」の提案に地域の方からの地域課題を取り入れ、あしや聖徳園の地域交流スペースが日常的な居場所になるための取組を行う。

地域の方が日常的に通いたいと思う場所、その場所の活用目的の意見を集めるため、地域の方に多く来ていただけるようなイベントを企画する。

イベントを企画するため、新たな市民の方が参加！

「食×防災」をテーマにイベントを開催！

地域の方が参加できる「備蓄品でつくるおしゃれレシピ」の募集や試食を行うとともに、新しい地域交流スペースの活用法について意見・アイデアを集める。

子育て支援

親子体操のプログラムを実施予定！

育児中の親の気分転換と親同士の交流を目的に、様々なプログラムを計画中。

未就学児をもつ保護者同士のネットワークづくりを目的に立ち上がった。
様々なアイデアを検討する中で、その都度取組の目的を共有し、協議を進めてきた。

親子で参加できるプログラムを計画し、ママ同士・パパ同士のネットワークをつくる！

この取組が、今回限りとならないよう、検討するプログラムを「汎用性が高く、各地域の実情に応じて工夫しやすいもの」とすることを意識。



株式会社芦屋人
坂本 美紗子 氏

多世代共助



企画部政策推進課
堂ノ前 貴洋

芦屋浜シーサイドタウンが居住者の世帯・年齢構成が変化していく中で、居住者の高齢化と空き住戸の増加の危険性を踏まえて、コミュニティの形成を行う必要性があると提案。

コミュニティづくりを行う「またあしたプロジェクト」と連携し、ソフト面の充実等の推進につなげ、多世代がつながれるコミュニティづくりに取り組む。

芦屋浜自治連合会、武庫川女子大学、兵庫県住宅供給公社と連携！

ニーズ把握のための実態調査の検討！

居住者のニーズを把握するため、武庫川女子大学と協働し、居住者へのアンケートの実施に向けて検討中。

イベントの開催に向けて企画を検討！

イベントに向けて、ご協力いただける企業・団体等の皆様や企画のアイデアがありましたらぜひ、お寄せ下さい！

「学び」を通して、芦屋を元気にし、芦屋に住んで良かったと思える取組を行う。
体験・経験・遊びを含め、様々な学びを継続して提供していきたい。

この取組を広く周知するために、3月にイベントを行う。

それぞれの「できること」と「したいこと」について協議を行い、理想の姿を共有し、取り組む内容について検討を行った。
また、市内の様々な拠点で様々な学びができる環境が必要であることを共有した。

世代をこえた人生を豊かにする学び



芦屋大学
中村 光男 氏

その他



芦屋市社会福祉協議会
山岸 吉広 氏
株式会社ポップ・アイディー
増田 多加恵 氏

バイク好きのキャラクター「イヌメン Z」を使って、交通安全の啓発活動を地域で行いたいという株式会社ポップ・アイディーの思いの実現に向けて、協議を行った。

地域行事に向けたプログラムのパッケージの作成とともに地域行事に参加するためのチームを結成し、プログラムについて、検討を行った。

芦屋市社会福祉協議会がコーディネート

市民や学生と連携し、それぞれができることでプログラムを検討！

地域行事への参加が決定！

11月11日（日）に開催される「潮芦屋ふれあい秋まつり」に参加し、様々な年齢層が楽しめるキャラクターを用いた〇×クイズを行う。

各グループの活動が、具体的で活発な内容であり、「こえる場！」をこの先も継続していけそうだなという手ごたえを感じました。



企画部
総合政策担当課長
中西 勉

これからさらに内容を具体化していくところですが、皆さんにご協力いただいたおかげで、「こえる場！」が形になってきましたので、今後も引き続きご協力をお願いするとともに、これまで以上にお力をお貸しいただけますと幸いです。

「こえる場！」でなにを「こえる」のか。それぞれが様々な解釈のもと、取り組まれており、国の想定をこえた芦屋発の「こえる場！」が生まれ始めた大変心強く思っています。

上手くいかないことがあると試行錯誤を重ね、新たな役割が生み出されます。様々な人が役割を持つ社会が地域共生社会だとすると「わずらわしさのあるまちづくり」でもあります。

多くの人々が役割を持つことができる「こえる場！」を通して、課題解決に取り組んでいただきたい。

今後のますますの発展を期待します。

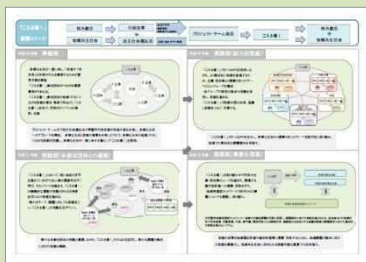
今後の「こえる場！」の展開

◎今後の「こえる場！」展開イメージ◎

地方創生を目的に取り組まれた芦屋市行政改革から「健康増進」、「高齢者の社会参加」、「全世代交流」のプロジェクト・チームが発足した一方で、地域共生社会の実現に向けた改正社会福祉法に関連した地域力強化モデル事業の取組の時期が重なったことで「こえる場！」の開催に至りました。

「こえる場！」の取組が様々な主体と連携するとともに行政諸計画に提案・反映していくことで地方創生や地域共生社会の実現につなげていけるよう展開していきます。

「こえる場！」
展開イメージ
をご参照ください！



日本福祉大学教授
平野 隆之 氏

◎展開イメージについてコメント◎

行政が「こえる場！」を本格的に普及させるため、2020年度の総合計画の改定に向けて「こえる場！」からの提案ができるよう、『「こえる場！」展開イメージ』が作成されています。

「こえる場！」がつくられた意図として、現在の地域課題の解決のために民間性が必要であることは明確であり、中でも「その他」のグループは様々な発想ができる重要なグループです。

責任を抱え込みすぎず、うまく行かないことも共有することで良い仕組みになると思います。

グループワーク『こえる場！』の今後の取組について

1
班

テーマ
『今後を見据えて必要なこと』



取組の過程や出てきたアイディアが「こえる場！」や地域に還元されるには？

2
班

テーマ
『「こえる場！」でなにをこえるのか』



「ジャンル」、「ロール」、「ハードル」をこえた「こえる場！」を目指す！

3
班

テーマ
『今後のビジョンの共有』



「調査」⇒「仕掛け」⇒「人材発掘」⇒「継続的な展開」に様々な人を巻き込む。

4
班

テーマ
『今後の取組の方向性』



「こえる場！」認定セミナーなど、芦屋「こえる場！」が取組を公認できるようにしてはどうか。

5
班

テーマ
『「その他グループ」でできること』



「その他グループでできることはなんだろう？」

役割や分野を“こえる”ことで、化学反応が起こり、新たな役割やルールが生まれます。様々な方に参加してもらうために、ニーズ調査時に取組の担えるところも入れてみても良いかもしれません。

『「こえる場！」をどう育てるか』や『「まちづくり」と「福祉課題の解決」の関係性』など、議論に多様性が生まれてきました。

「まちづくり」と「地域課題の解決」は非常に関係の深いテーマですので、あわせて考えると良いと思います。

「こえる場！」で「何を“こえた”のか」成果も大切ですが、連携する面白さも楽しんでください。



次回の開催案内

○●第5回「こえる場！」全体会●○

日時：平成31年3月15日（金）

午後1時30分～4時

場所：芦屋市役所東館3階大会議室

＊お知らせする内容等がある

＊新たに参加したいグループがある

地域福祉課までご連絡ください！

《お問合せ》芦屋市福祉部地域福祉課

TEL：0797-38-2040 FAX：0797-38-2060

Mail：chiikifukushi@city.ashiya.lg.jp